

平成 19 年 4 月 17 日
日本銀行盛岡事務所

岩 手 県 金 融 経 済 概 況

1. 概 況

県内経済は、緩やかな回復を続けている。

最終需要の動向をみると、住宅投資が前年並みの動きとなっているが、公共投資は足もと前年を上回っている。この間、個人消費は横這い圏内で推移している。

こうした中、生産が増加を続けているほか、雇用情勢も改善傾向にある。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、横這い圏内で推移している。

(大型小売店売上高)

百貨店の売上高は、天候不順の影響から春物衣料品の販売が低調なうえ、食料品や家庭用品なども落ち込んでいるため、前年を下回って推移している。一方、スーパーの売上高については、衣料品は伸び悩んでいるが、来客数、客単価とも持ち直してきており、明るさがうかがわれ始めている。

(家電量販店売上高)

家電売上高は、薄型テレビや新型ゲーム機、高付加価値の白物家電などが堅調に推移している中で、就職環境の改善から新生活需要もみられていることから、全体としても持ち直しの方向にある。

(乗用車新車登録台数)

乗用車新車登録台数（軽自動車を含む）は、団塊世代の需要などから普通車が前年を上回ったものの、全体では小型車を中心に前年を下回っている。

(2) 公共投資

公共工事請負金額は、災害復旧工事の発注もあって、前年を上回っている。

(3) 住宅投資

新設住宅着工戸数は、均してみれば、前年並みで推移している。

(4) 設備投資

3月短観における設備投資計画をみると、2006年度は非製造業の大型投資に支えられ、高水準の前年度並みとなっている。2007年度計画は、製造業は前年度をやや上回る計画、非製造業は情報通信の大型投資一巡から、前年度をかなり下回る計画となっている。

3. 生産動向

生産は、増加を続けている。

(電子部品類)

電子部品・デバイスでは、薄型テレビなどのデジタル家電や海外の携帯電話向けを中心に高操業が続いている。

(輸送用機械)

完成車については、新車種の生産本格化から高操業が続いている。自動車部品も、完成車の輸出好調を背景に高水準の生産を続けている。

(一般機械)

自動車関連向け工作機械の生産が好調なほか、各種機械部品も幅広い分野から注文が入り高操業を続けている。

(食料品)

水産缶詰は、健康番組効果などから青魚製品を中心に生産が回復している。一方、清涼飲料は、暖冬の影響から季節商品が落ち込んだうえ、スポーツ飲料の伸び悩みもあって、減産傾向で推移している。

(その他)

鉄鋼の線材は、自動車向けを中心にフル操業を続けている。窯業・土石は、公共投資が減少基調にあることから、全体としては低操業を続けている。

4. 雇用・所得の動向

雇用情勢をみると、2月の有効求人倍率（季節調整値）は、0.79倍と前月比0.04ポイント低下したが、新規求人数は、前年同月比で17か月連続の増加となっている。また、今春の新卒採用も前年を上回るなど、労働需給は引き続き改善傾向にある。

一方、雇用者所得は前年割れが続いている。常用労働者数は、昨年12月以降前年比増加に転じているが、名目賃金は前年水準を下回って推移している。

5. 企業倒産

企業倒産（負債総額10百万円以上）をみると、件数ベースでは2月、3月と2ヶ月連続して2桁台となったが、負債総額は比較的落ち着いて推移している。

6. 金融面の動向

預金動向をみると、法人預金、公金預金がいずれも前年割れとなっているが、個人預金が堅調に推移しているため、全体では前年をやや上回って推移している。

一方、貸出動向をみると、法人向けは、依然低調の域を脱していないが、個人向けが住宅ローンを中心に前年を上回って推移しているほか、地公体向けも増加傾向にあることから、全体でも前年を上回って推移している。

以 上

本件に関する問い合わせ先 日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） http://www3.boj.or.jp/morioka/
